



有床診療所から病院へと拡張し トップレベルの甲状腺医療を提供

病床数38床と小規模ながら、手術件数は約800件。
甲状腺・副甲状腺の外科的・内科的治療の設備を完備し、
院内で治療が完結できる盤石な体制を築いている。

vol.47

病院新時代



医療法人福甲会

やました甲状腺病院

(福岡市博多区)

やました甲状腺病院の新たな視点

- 国内で数少ない、甲状腺・副甲状腺疾患専門病院
- 無床診から始め、有床診、病院と発展
- 専門分野の若手育成に注力

1 女性患者が多いこともあり、女性スタッフの活躍が目立つ 2 検査・診察スペースは広くとっている 3 血液を遠心分離させ、ホルモン量を調べる 4 放射性ヨード治療室。病室内は放射線を外部に通さないように鉛で厳重に防御されている 5 検査体制に力を入れ、ガンマカメラを導入 6 「規模はそれほど大きくありませんが、専門性が高いからこそ、よい人材が集まりやすい。育成に力を入れていきたいです」と語る山下弘幸理事長

手術件数は年間約800件。手術室は4室となっている



医療法人福甲会
やました甲状腺病院
〒812-0034
福岡市博多区下呉服町1-8
TEL: 092-281-1300
病床数: 38床(急性期一般入院料4)
URL: <https://www.kojosen.com/index.html>

「患者さんのために専門病院として当法人の継続を考え、発展させてきました。ハード面のみならず、人材を充実させていきたいです」と今後の展望を語った。

現在は外科医5人、内科医2人、麻酔科医2人の医師9人となり、年間約800件の手術件数を行う病院へと発展している。山下理事長は「患者さんのために専門病院として当法人の継続を考え、発展させてきました。ハード面のみならず、人材を充実させていきたいです」と今後の展望を語った。

治療には精密な検査が重要なため、2階部分をほぼ検査室とした。ガンマカメラ室やCT室があり、エコー室は5室設けた。病理部門では、協力大学と手術後の病理検査を行う。検査部門では臨床検査技師・診療放射線技師を計13人確保、新人教育も行う。

病院開設時に増築した新館スペースは、甲状腺がん術後の再発予防を目的とした放射性ヨード治療の病室を設置。厳重な管理が必要であり、県内では九州大学病院と同院の2カ所のみとなる。

国内では数少ない甲状腺・副甲状腺疾患に特化した病院であり、山下理事長は「福岡市は病床過剰地域です。有床診の新規開設は正直大変でした。甲状腺は慢性疾患で、長期的な治療が必要となり、専門特化した医療機関の必要性を県に訴え続け、開設にこぎつきました。将来的には病院にすることも見据え、有床診は当初から5階建てにし、スペースの確保にこだわりました」と語る。

同院は甲状腺・副甲状腺疾患の治療を院内で完結できる設備を整えている。治療には精密な検査が重要なため、2階部分をほぼ検査室とした。ガンマカメラ室やCT室があり、エコー室は5室設けた。病理部門では、協力大学と手術後の病理検査を行う。検査部門では臨床検査技師・診療放射線技師を計13人確保、新人教育も行う。

山

下弘幸理事長は徳島大学を卒業後、九州大学第一外科に入局。内分泌疾患の専門病院の野口病院で、特に甲状腺がんの外科治療で実績を残してきた。2006年、無床診療所を開設し、原三信病院の開放型病床を利用し、甲状腺・副甲状腺の手術を行い、08年には甲状腺がんの手術件数が全国4位となった。患者数増加に伴って12年に有床診療所として新築移転した。さらに専門医療機関として、年々増加する患者の受け入れや専門医師の育成などの役割を担うため、他法人から病床を譲り受け、17年にやました甲状腺病院を開設した。

撮影=寺井信治

(C) 2022 日本医療企画